

## 「バッカーズ寺子屋」の塾生に向けて 講演を行いました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



独立系企業家たちによる社会貢献活動を目的として設立された「バッカーズ・ファンデーション」。その取り組みの一つである人材教育プログラム「バッカーズ寺子屋」にて、塾生たちへ経営に関する講演を行いました。

「バッカーズ・ファンデーション」は、日本の企業家・経営者が集い、次世代リーダーの育成をはじめ、芸術・文化、動物福祉、難民支援など、多岐にわたる分野で社会貢献を実践しているグループです。

その活動の一つである「バッカーズ寺子屋」では、小・中学生を対象とした「志の教育」を展開しています。多感な時期に、第一線で活躍する経営者の言葉に触れ、企業訪問をして生の社会活動を見聞きし、作文やスピーチを通じて自己表現力を研鑽します。ときには自然や歴史を肌で感じる体験を通じ、働くことの意義や人としての正しい振る舞い、リーダーシップを学ぶ場を提供しています。

健育会グループではこれまで、塾生の方々の企業訪問を受け入れ、医療現場の最前線に直に触れていただく機会を設けてきました。

今回は、医療分野の経営者という立場から「日本の将来を担うあなたに伝えたいこと」と題し、塾生の前で講演を行いました。



講演では、企業が存続する上で「経済的価値」と「社会的価値」の両輪を創造することの重要性や、経営者に求められるべきマインドについて、医療分野からの視点も含めてお話ししました。

日本資本主義の父と称される渋沢栄一は、豊かな社会の実現には、誠実さと義理を尊ぶ「武士の精神」と、利益と産業を育む「商人の才」を兼ね備えねばならないと説き、「士魂商才」という言葉を掲げました。

私は、渋沢栄一が掲げたこの言葉をなぞり、健育会グループの経営指針を「医魂商才」という言葉で表現しました。

## 経営者に必要なもの

- 士魂商才  
(医魂商才)
  
- 論語とそろばん
  
- 道徳なき経済は悪であり、  
経済なき道徳は寝言である

健育会グループでは、診療行為に関する責任と病院経営の責任を明確に分担した「ツートップ制」という、医療と経営の役割を分離する仕組みを取り入れています。

私が約30年前に理事長へ就任した際に導入した「ツートップ制」をはじめ、健育会グループではDXの推進や、医療人としての使命感を育む環境づくりなど、医療と経営の両面で様々な創意工夫を凝らし、日々の活動に励んでいます。

こうした積み重ねによって、経営環境が厳しいとされる医療業界にありながら、健育会グループは効率的かつ質の高い医療を提供し続けることができます。




また、二宮尊徳の報徳思想を象徴した言葉を例に、健育会グループで掲げている「Our Team経営」について詳しくお話ししました。

「Our Team経営」には、「安全」「確固たる経営」「愛情を持って親身な対応」の3つの要素が存在しており、これらは優先する順番が非常に大切であることを伝えました。

さらに、経営者としてトップに立つ上では、職員一人ひとりにルールを遵守させることや、仕事に対する使命感と夢を抱ける環境を整えることが重要であること。そして自らが旗を掲げ、組織として進むべき方向を指し示すことが求められる、とお話ししました。

## 管理と経営



管理：ルールを決めて守らせること

経営：社会に貢献すること  
行き先を社員に示す使命感と夢

最後に、医療とは地域社会や人々の生活からの要請に応え、それらを支えるものであるということを、武見太郎の「医療とは医学の社会的適応である」という言葉とともに伝えました。

講演の終わりには、塾生の皆さんから様々な質問をいただきました。日頃から多くの経営者の言葉に触れている塾生ならではの鋭い視点に驚かされ、質疑応答は30分以上にわたるほど、大変な盛り上がりを見せました。



日本の未来を担う塾生の皆さんが、将来大きく飛躍する上で、今回の講演が何らかのヒントになれば大変嬉しく感じます。

「夢を志に高める」ための学びの場である「バッカーズ寺子屋」の活動を、健育会グループはこれからも全力で支援していきたいと思えます。